

学びは現場で起きている。

第3号・令和8年 5月14日

【「平和学習②」を実施しました(1学年)】



5月7日(木)、被爆伝承者の東野真里子さんをお招きして、お話を伺いました。

生徒たちは終始真剣な表情で話に耳を傾け、一人ひとりが被爆体験に基づく言葉の重みを受け止めながら聞いている様子が見られました。

広島で学ぶ生徒たちにとって平和学習は身近なものではありますが、今回の講話を通して、教科書や映像資料だけでは伝わりきらない「実際に生きた人の思い」に触れることが

できました。被爆体験を単なる歴史上の出来事としてではなく、自分自身の生活や未来と結び付けて考えるきっかけになったようです。

<生徒の感想の一部>

○講話を聞いて一番心に残ったことは「平和はみんなで作れるもの」という言葉です。私は今まで平和は当たり前のものだと思っていたけれど、たくさんの苦しみや悲しみの上に今の平和があることを改めて知りました。

○今まで被爆体験は何回も聞いてきましたが、何度聞いてもとても苦しくなります。自分や周りの人々がこんな苦しい思いをしないように、今から生きていく中で広島から平和を訴えていけたらいいなと思います。

○起こった出来事を細かく伝えてくださって、その時の情景がよりリアルに浮かび上がってきました。東野さんは最後に「心こそ大切」とおっしゃっていました。一人ひとりの心を交わすことができれば戦争や核はなくなっていくのかなと思いました。

○これからは自分も世界平和に関わっている一人だと自覚し、周りにいてくれるみんなと共に生きられることに感謝の気持ちを持ち、大切にしていきたいと思います。